第491号

主な記事

・被災者の医療費窓口負担免除継続を求める請願　採択（1面）
・夏季特集　総会記念講演「世代を超えて広がる貧困」要旨（2～4面）

岩手県保険医新聞

発行所
岩手県保険医協会
〒020-0034
盛岡市盛岡駅前通15－19
TEL 019-651-7341(代)
FAX 019-651-7374
発行人　南部淑文
http://www.i-hoken-i.org
購読料　年2,400円（〒別）
会員の購読料は会費に含まれています。

被災者の医療費窓口負担免除継続を求める請願　可決

岩手県議会

請願書を田村誠岩手県議会議長（左から3人目）に提出

当協会が6月30日、岩手県議会議長に提出していた「東日本大震災被災者の医療費窓口負担免除の継続を求める請願」が、7月7日の本会議で賛成多数で可決されました（自由民主クラブ所属の全議員13名と公明党議員1名が反対。議員ごとの賛否の状況は以下の通りです）。

請願提出日には、当協会で行った「被災者医療費アンケート」の結果について記者会見も行い、小野寺けい子、小山田榮二、坂正毅各副会長と三浦陽子常任理事、事務局が出席。小山田副会長は「免除が打ち切られたらがん治療を優先し他の治療は減らすか停止するといった声もあり、今後の生活不安が多く、震災から時が経ち、生活はさらに切迫している」と指摘しました。

また、社保（協会けんぽ等）は、震災1年半後の2012年9月末で免除が打ち切られ、今回のアンケートでも約半数が通院回数を減らしたり、通院できなくなったと答えていました。「なぜ社保だけ免除がないのか」「被災者はすべて免除してほしい」などの声もあり、社保の免除復活について

請願項目

1、岩手県は、被災された方の医療費窓口負担免除に係る補助を2018年1月以降も継続して下さい
2、国において被災された方の医療費窓口負担免除に係る費用の全額を補助するよう、国に対し意見書を提出して下さい
3、国において被災された社保の方の医療費窓口負担の免除を復活するよう、国に対し意見書を提出して下さい

も求めました。

当協会の請願は、右記の項目1は県へ要請され、2と3は国へ意見書として提出されました。

被災者医療費アンケート結果の詳細は次月以降お知らせいたします。

東日本大震災被災者の医療費窓口負担の免除継続を求める請願　議決結果

（敬称略）

政党名	名前	賛否
改革岩手	菅野　ひろのり	○
	柳村　一	○
	阿部盛重	○
	佐藤　ケイ子	○
	千葉　進	○
	佐々木　朋和	○
	名須川　晋	○
	軽石義則	○
	高橋但馬	○
	小野共	○
	郷右近　浩	○
	高橋　元	○
	関根敏伸	○
	佐々木　順一	○
	田村　誠　議長	○
	伊藤勢至	○
自由民主クラブ	佐々木宣和	×
	川村伸浩	×
	神崎浩之	×
	城内　よしひこ	×
	福井せいじ	×
	佐々木茂光	×
	高橋孝眞	×
	岩崎友一	×
	嵯峨壱朗	×
	工藤勝子	×
自由民主クラブ	樋下正信	×
	柳村岩見	×
	千葉　伝	×
	千葉絢子	○
いわて県民クラブ	ハクセル美穂子	○
	佐々木　努	○
	工藤勝博	○
	飯澤　匡	○
	渡辺幸貫	○
	田村勝則	○
創成いわて	工藤　誠	○
	中平　均	○
	五日市　王	○
	工藤大輔	○
	千田　美津子	○
日本共産党	高田一郎	○
	斉藤　信	○
社民党	木村幸弘	○
	小西和子	○
公明党	小野寺　好	×
無所属	吉田敬子	○
無所属	臼澤　勉	○
賛成者数		33
反対者数		14
表決者数		47

〈岩手県議会ホームページより〉

ベアレンビールで乾杯！

日中、30度となった7月19日㈬、盛岡のビアパブ・ベアレン材木町で「ベアレンビールを楽しむ会」を行いました。参加者は定番のコクと苦みのバランスが良い「クラシック」から、季節限定の小麦を使ったバナナのような香りが特徴の酵母入りの「夏のヴァイツェン」、限定ビールで人気ナンバー1の国産レモン果汁使用の「ラードラー」など、冷えたビールを心行くまで味わいました。

当日は毎週水曜に行われる盛岡駅前開運花火があり、参加者は北上川を望む絶好のロケーションのテラス席から花火を楽しみました。

特賞がビール、ワインのビンゴ大会も盛り上がり、特賞以外にもディズニーやキティちゃんなどの非売品が参加賞として配られ、楽しいひと時を過ごしました。景品をご用意くださいました各生保会社の皆さまには心よりお礼申し上げます。

鉞（はり）のひびき

今年のお正月に、我が家に初めて外国人がやって来た。面と向かって外国人と話すのは初めてで緊張したが何の事はない、彼は日本語がペラペラで日本人より上手に話すではないか。聞けば、現在ニューヨークの大学院で日本文学を専攻しているとの事。オランダ人の彼の口から、夏目漱石はどうだの、谷崎潤一郎はこうだった、芥川龍之介は云々などの言葉が出てくると、見た目とのギャップにかなりの違和感を感じてしまう。書店に案内した時は、文学書のコーナーでこれが欲しかったとか、こんなのあるんだとはしゃいでいるではないか。小生は、生まれてこのかた、小中高の国語の時間に触れて以来、社会に出てから書店で手に取るのは、週刊誌のみ。恥ずかしい限りである。そんな彼の姿を見てふと思ったのは、オランダ、スペイン、イギリス、フランスなどのヨーロッパの国々は、古く大航海時代から異国の文化に触れており、その国の価値観や精神を受容するDNAを持っているのではないのか？ヨーロッパの国々は、移民の受け入れに寛容な国が多い。しかし、その寛容な国で今、何の罪もない善良な市民を巻き込んだ無差別、非道なテロリズムが頻発している。そして、その結果としてナショナリズムと移民排斥運動が起こっている。何百年もの歴史で育まれてきた国籍や宗教、文化が違っても相手を尊重し受け入れる広い心を持ったヨーロッパの諸国が今、岐路に立たされている。実に悲しいことである。今夏、彼の人生の新たな門出を祝福するため、渡蘭します。一抹の不安を抱えつつ……

（来持）

■　税務調査、個別指導、保健所の立入検査の連絡があった際は、お早めに協会にご相談ください。（TEL019-651-7341）

夏季特集

第40回総会記念講演要旨

「世代を超えて広がる貧困」

“老後破産”の取材現場より

講師　板垣 淑子 氏
NHK報道局社会番組部
チーフプロデューサー

【講師プロフィール】

1970年生まれ。中学2年から高校卒業まで名古屋で過ごす。

東北大学法学部卒業後、1994年NHK入局。

報道局制作センター（首都圏ネットワーク、衛星放送）、仙台局、報道局制作センター（おはよう日本、番組部）、スペシャル番組センターを経て現職。

2006年、若者を中心とした不安定雇用の実態に迫るNHKスペシャル「ワーキング・プア」を制作、大きな反響を呼び、ギャラクシー賞・大賞、放送文化基金賞優秀賞、新聞協会賞などを受賞。

2010年、「無縁社会、無縁死32,000人の衝撃」で菊池寛賞。

2015年「老人漂流社会」、2017年2月NHKスペシャル「見えない貧困」で子どもの貧困に焦点を当てる。

皆さん、こんにちは。NHKの板垣と申します。クローズアップ現代やNHKスペシャルなどで医療、社会保障の問題を中心に番組を制作しております。

今日は私がライフワークとして取り組んでいる、高齢者の孤立と貧困についてお話させていただきます。

広がる〝無縁社会〟

高齢者の孤立、貧困問題に最初に取り組んだのは2010年放送の「無縁社会」という番組でした。親しくしている警察の副署長から最近の行旅死亡人、ことばは悪いですが、いわゆる「野たれ死に」の方々は名前がわかっている人が多いということを聞き、官報の記事を調べました。

20年前まで遡ると、行旅死亡人は道で倒れて名前がわからない路上生活者ばかりでした。2010年には自宅の風呂場で亡くなっていたり、表札や貯金通帳に名前がある方でした。官報の記事は遺骨の引き取りを近親者に求めるものですが、非常に違和感を覚えました。

昨日まで元気に暮らしていた方がなぜ行旅死亡人として載り、無縁墓地に葬られるのか。しかも例外的でなく、増えてきているのを見て、なぜそうした最期を迎えるに至ったのか取材させていただきました。

孤立の裏に潜むもの

2012年からシリーズで「老人漂流社会」を立ち上げ、孤立の裏側に何が潜んでいるのか取材を深めていきました。データ的にわかったことは2012年は65歳以上の人口が初めて3千万人を突破し、一人暮らしの人口が500万人、6人に1人が一人暮らしだということでした。

その時、公的な介護施設は100万足らずでしたので、決定的に不足しているということが同時にわかりました。ただ、高度経済成長の屋台骨を支えてきた方々が今の65歳以上の方々だとすると、経済的に余裕があると見られてきましたし、私自身もそのように思い込んできました。

一人暮らしの半数が生活保護水準以下で生活

みずほ総研のシンクタンクと取り組み、2015年の「老後破産」で一人暮らしのお財布事情を明らかにすることができました。

驚いたのは、わずか3年で一人暮らしが600万人に増え、そのうちの実に半分の300万人が月収10万円以下、月収1桁で暮らしているということでした。

番組を作る際、生活保護の水準を憲法25条で定められた国が保障している最低限度の水準として用いることが多いのですが、一人暮らしの単身の方の場合、生活保護受給費は平均13万円前後あることから、一人暮らしの半分は生活保護水準以下で暮らしているということになります。

実際にその300万人のうち、生活保護を受けている方は2015年に70万人でした。その後ものすごいペースで増え、まもなく100万人に達しようとしています。それもそのはずで、残り230万人の方が追い詰められた生活をされてます。

生活保護を受けない理由

年金をもらっていると生活保護を受けられないと思っていること、仕組みは知っていても受けたくない、離れて暮らす子どもや兄弟に迷惑をかけたくないという方もかなりの数いらっしゃいました。

世の中の何の役にも立っていないのに、こんな老いぼれが税金でお上に面倒をみてもらうなんてとんでもないと涙ながらにお話する姿を何度も目にしました。死んでしまった方がいいとお話になる方もいて、そういった方の中には生活保護を受けて医療や介護を受けるべき方も数多くいらっしゃいました。

そうした方々は何かちょっとおかしいと思っても、ぎりぎりまで我慢して結果的に救急搬送されてICUで数週間を過ごし、身元不明で亡くなられます。そうした方をたくさん見てきました。

番組の中では生活保護水準以下の収入しかなく、かつ預貯金や財産もなく、そして医療や介護を切り詰めなければ暮らしていけない状況を「老後破産」と呼んで取材を続けて参りました。

ケース1

- 東京都内の古い団地で自治会長を務めていた女性
- 専業主婦で夫の自営業を支えてきた
- 国民年金だけで老後を暮さざるを得ず、一人分で6万5千円足らず
- 息子に先立たれ、夫を亡くし、一気に困窮

夫を亡くした専業主婦が困窮

特に専業主婦の方が旦那様を亡くされた後、経済的に困窮し医療や介護を節約しなければならないことも相まって孤立を深めてしまうということもわかってきました。

ケース1の女性は関節リウマチで歩行が困難ですが、朗らかにお話される方でした。経済的に余裕がなく朝の1時間だけ介護保険を利用しています。リビングから冷蔵庫まで歩くのに30分かかる状態で、トイレに間に合わず、ポータブルトイレをベッド脇に置いています。取材に行く際、そのことを1番嫌がっておられ、朝の介護が終わった直後になるべく行くようにしていましたが、時間がずれてしまうと、そのことをとても辛くお話されました。せめて夕方にもう1回、30分だけでもサービスを増やしたいが、預貯金がこれ以上減るのが怖いと、切り詰めた暮らしをされていました。

寝たきりになってからの生活保護

本当は関節リウマチでリハビリに通えれば良かったのですが、そういった費用も節約し一日中部屋で過ごし、座っている時間が長く、血栓が詰まって内臓や心臓の病気で何度も発作を起こして入院し、預貯金が尽きて、やっと病院のケースワーカーさんに勧められて生活保護を受給するという経過をたどりました。

今は必要な医療も介護も受けられますが、もっと早い段階で手を差し伸べられていれば、苦しまずに健康な状態を維持できたのではないかと思います。

医療費2割負担で追い詰められ

この方は年金1桁で1割負担でしたが、今後、年金収入が年間200数十万円を超えてくると2割負担という時代に突入します。取材の実感として、年金収入が月20万以上ある方はお一人でも在宅医療・介護をうまくあわせてやっている印象があったのですが、決して余裕がある暮らしではなく、それでぎりぎりとお見受けしたので、2割負担が始まると高齢者層の中間層の方々、持ちこたえてきた方々も命にかかわるサービスを切り詰めなければ生活を維持できない状態に追い詰められていく、老後破産の分母がどんどん増えていくのではないかと強く感じました。

増える出戻り同居

親の年金だけで医療や介護を賄えない場合に何が起こるのか。子どもが介護すればただと言われます。しかしその子どもたちの世代は非正規雇用が4割を超え、簡単に転職や離職でき、介護離職して同居して親の介護をしながら、アルバイト、パートをする方が急増しています。1980年代は親元を自立してから再同居するパターンは30万人程度でしたが、2015年には300万人と、10倍に増えました。

追い詰められる親子

結果的に子どもが介護すれば介護費用がかからない、だから安心となるかと思いきや決してそうではなく、医療技術の進歩によって多くの方々が亡くなる年齢は90代半ばになっています。

2015年時点で100歳以上の方が6万人。80代半ばで介護が必要になる方が多いと思いますが、お子さんの年齢は50

代、60代です。そこから90代半ば、100歳近くまで生きるとなると、お子さんも高齢期に近づく、つまり、アルバイトの収入が途中で途絶え、一人暮らしでも大変だったお母様の年金収入に2人で依存しながら生きていかなければならないという究極の状況が生まれてしまう。

しかも今、働ける状態の子どもと同居していると、原則として生活保護は認められません。そうした中で追い詰められていく親子が数多くいることがわかりました。

岩手で起きた親子同時遺体発見

親子共倒れの状況を取材した現場の一つに選んだのは岩手県の水沢でした。のどかな農村、集落の人全てが幼馴染で顔なじみ、そういった農村でお母様を介護している武さん。認知症が進み徘徊やボヤ騒ぎが起こるようになり、仕事が続けられなくなり、経済的に追い詰められていく。武さんは病気を患っても病院に行けず、急性の発作で亡くなり、お母様は寒い冬の岩手で、息子さんの死後2日～4日以内に凍死され、その後2人同時に遺体で発見されるという本当に痛ましい出来事がありました。

取材に行ったのは30歳になりたての若いディレクターでしたが、彼女が最初に驚いたのが、町を通りすがる小学生に武さんのことを聞くと、「タケちゃんマン、タケちゃんマン」と言って慕っている姿、孤立からかけ離れているイメージがそこにはありました。迷惑をかけたくないと思うあまり、周囲にひた隠しにし、最終的にこういう結末を迎えてしまいました。

武さんは生前に一度だけ役場に医療費の相談に出向かれていました。結局何も手立ては見つからなかったわけですが、生活保護を受けるとなると役所が勧めるのは世帯分離という方法です。お母様には家から出てもらい、施設に住んでもらって、医療費や介護費の負担を免除してもらう。武さんには安いアパートに住んでもらい、当面は生活保護で生活を立て直しつつ、就職の道を探ってもらい、最終的に自立を目指してもらう。

2015年(平成27年)1月14日(水曜日)第23835号

単身介護 連鎖の最期

頼りの息子自宅で病死

年老いた母も息絶え

水沢区黒石町

進む過疎化 細る集落

支援の谷間 浮き彫り

武さんもお母さんも一緒に住みたいという強い願いがあるために、たとえ苦しくても世帯分離が選択肢になりませんでした。

制度の矛盾

この制度はおかしいことだらけだとこの時に感じました。同居している状態のまま医療や介護費を免除しても、お母様を施設で丸抱えして、武さんに生活保護でアパートで暮らしてもらうより社会的コストも少なくて済みます。介護人材不足の中、お子さんが介護したいと積極的に申し出ているのであれば、自治体としては頭を下げてでもお願いしなければならないものではないかと感じました。現象と制度に矛盾が生じてきています。生活保護の中でも特に住宅扶助や生活扶助といった生活費の部分ではなく、医療扶助、介護扶助は切り離してもっと柔軟に運用することができるようにすべきだと感じました。

ケース2

- 岩手県奥州市水沢区黒石町の山間部
- 2015年1月9日、91歳の母親と64歳の長男が自宅で遺体で発見
- 体が不自由な母親を長男が在宅介護
- 長男は急性肝炎による病死、母親は低体温症

先進国では

こうした問題に先進諸国は向き合い始め、単身化が進んでいるヨーロッパ諸国やアメリカなどは制度間調整を取り入れています。高齢者の手元に残るお金が一定程度以下にならないようにするという制度です。基準にしているのは生活保護基準のようなもので、例えば10万円と決めます。これを上回る年金がある人でも、医療や介護の負担が大きいと10万円を割り込むことがあります。そうなった時に生活費として10万円がきちんと手元に残るように制度間調整をするという仕組みです。

年金額が3万円や5万円と低い方は医療や介護の補てん分も加えて月額の生活費10万円が残るように保障しています。

仕事と介護　両立できるか

日本人は我慢強いのか、暴動も起きずに医療や介護費用まで切り詰めて暮らしています。武さんも畜産農家の手伝いで17万円の収入がある時は困りませんでした。介護と仕事が両立できれば困ることはなかったのです。

お子さんと親が介護のために同居していて、介護が必要な親を働いている時間、1人の状態にしてしまうことを福祉の現場では「日中独居」と表現しています。都内では昨年8月の熱中症による救急搬送の20％程度が日中独居のお年寄りでした。

親が認知症の場合、本当に働けるのか。武さんも近所の畜産農家で牛の世話を任されていましたが、畜産農家の方のお話では、1日に6回も7回も家に様子を見に行きながらお仕事を続けていらっしゃった。しかしある日、車いすで移動しようとしたお母様が車いすごと横倒しになって股関節を脱臼し、お仕事を退く覚悟をしたことも聞きました。社会福祉協議会の方々も、留守の時間帯に見守りや人の目を入れることができたのではないかと話され、今、水沢でも一人暮らしの高齢者だけでなく、高齢者がいる世帯の問題として捉え直そうと、新たな方策を練り直しています。

日中独居が広がっている背景の一つに団塊世代の問題があります。取材した中で団塊世代の75％が仕事による収入があるということがわかっています。その理由が長寿化している親の介護です。

親の介護は自分で

団塊世代の親は戦前生まれの自営業や農家で、ほとんど無年金あるいは、もらっていても額は非常に少ないという方が多く、親の介護や生活費は自分で支えなければいけないという意識が非常に強くあります。

世論調査によると、自分の親の介護を自分でしますかという問いには9割以上の方がするとお答えになっています。ところが自分の子どもに介護してもらいますかという問いに、介護してもらいたいと積極的に答えた人はわずか4％でした。

この結果を見て、福祉の専門家は、団塊世代は自分の親を介護する最後の世代、そして子どもに介護してもらえない最初の世代になる、だからこそ、団塊世代が70代、80代と歳を重ねる前にしっかりと老後を支える仕組みづくりを整えていかなければいけないということをおっしゃられる方が多くいらっしゃいます。

親の介護による老後不安

団塊世代の方はモーレツサラリーマン世代で収入、退職金をきちんともらっている方が大勢いらっしゃいますが、親の介護の長期化で自分の老後の備えを親のために使わなければいけないという状況を引き起こし、老後不安を増幅させています。

ケース3の青山さんは、親の介護費用に預貯金を使ってきました。最初は大丈夫だろうと思っていましたが、親が80代、90代とずっと元気で、預貯金の目減りが不安で働きたいと強く願っていて、退職した職場からもう一度働かないかと繰り返し誘われましたが、お母様が重度の認知症で家を空けられる状態ではなく、ただただ預貯金が減っていく不安と戦いながら生きていらっしゃいます。

減額が続く年金、預貯金が減る恐怖

青山さんはお母様をとても大事にされ、お母様も青山さんといる時間を楽しんでいて、仲睦まじく一緒にいると楽しくなってしまうような親子です。青山さんの年金は毎年、4千円から5千円減額が続いています。自分の老後のためにいくばくかは残しておきたい、介護施設に入る頭金くらいは残しておきたいと思っておられますが、日々支出はあり、預金が目減り

■　Ⅳ種（家族）会員が新設されました。詳細は事務局までお問い合わせください。（TEL019-651-7341）

していく状況を本当に恐怖と感じていると何度も繰り返しお話くださいました。

切り詰めるサービス

かつては朝晩と頼んでいた介護サービスを今は朝だけ、しかも最初は1時間だったのを30分に縮めています。デイサービス2回も半日のみ、買い物に充てています。買い出し以外はほとんど外出もせず介護を男手一つでなさっています。自分のことを「籠の中の鳥」と揶揄されてましたが、それでも明るく、前向きに一生懸命介護を楽しみながらしてらっしゃいました。

今はまだ預貯金があるから良いですが、どんどん減っていった時に、この精神状態を保ち続けられるのか。青山さんはお金がなくなったら死ぬしかないとも冗談で話されましたが、追い詰められた時のことを考えると怖いと感じました。

これ以上追い詰めてはいけない

利用しようと思えば、世帯分離をしてお母様に生活保護を受けてもらうことができないわけではありませんが、恐らく、それだけの預貯金があれば、施設の費用を負担しなさいと言われ、さらに加速して目減りしていくことを恐れて、青山さんは自分の体が続く限りは介護したいと考えています。

しかし、素人の取材者でしかありませんが、私たちから見ても、精神的に青山さんの方がもういっぱいいっぱい、これ以上はこの方を追い詰めてはいけないという状態でした。

ケース3

- 青山さん（男性）は奥様に先立たれ、高齢の母を一人で介護
- 退職した時は預貯金が3千万近く
- 自身の年金は8万円程度
- 親の介護費は預貯金から

対抗策は

こうした事態にどう向き合っていけばいいのか。クローズアップ現代で取り上げたのが高度経済成長期にベッドタウンとして整備されたニュータウンが一気に高齢化し、地区によっては高齢化率40％を超える埼玉県幸手市の取り組みです。

日中独居の問題が深刻で、見かねた地域の方々が何かできないかと取り組まれたのが「幸せ手伝い隊」というボランティアの仕組みです。

埼玉県幸手市での取り組み

ボランティアを全国取材させていただきましたが、幸手の仕組みは本当によくできています。

制度の発起人として自治体である高齢福祉課が加わり、訪問介護ステーションや訪問医、民生委員、地域包括支援センターなど、11団体の代表の方が立ち上げに関わっていて、土台が安心できるような制度設計になっています。

ボランティアというと無償にしがちですが、有償にしています。一人暮らしの高齢者を取材すると、無料の傾聴ボランティアの場合、どれだけ寂しくても、私なんかのくだらない話をただで聞いてもらうなんて申し訳ないと遠ざけます。ところが、使った分をペイしているという安心感があると使ってもらえるということがあります。

ボランティアの中心は70代

また、ボランティアをする側に年齢制限を設けておらず、ボランティアの中心が70代以上ということでした。ボランティアといっても、生活支援を行うことになり、買い物代行や食事作りなど、1回30分から1時間程度で350円。自分ができることだけを登録すれば良く、発足して半年で登録されている方が300人ほどいらっしゃいました。サービスの内容によって利用料は異なりますが、運営手数料100円を引いて250円が地域通貨としてボランティアの方の手に渡ります。

実際に利用している方を取材させていただけないかとご紹介いただいたのが75歳の女性でした。旦那様を早くに亡くされ、引きこもりの状態になったそうです。包括支援センターや福祉課の方が頻繁にお宅を訪ねてデイサービス受けてみませんか、催しに参加しませんかと手を差し伸べ続けたそうですが、元気だからそんなのいらない、結構だと玄関先で追い返されていたそうです。

心開く鍵

ところが「幸せ手伝い隊」のボランティアをしてみませんかとお声掛けしたら、「私、365日曜日だから、毎日でもやりたい」と言って、今はボランティアのリーダー的な存在です。気に入られると指名制度があるそうですが「指名を受けるのが快感なのよ」とお話されるぐらい生き生きと過ごされているのを見て、市役所の方が、助けてあげるというのはかなりおこがましい、孤立しているからといって、苦しんでいるだろう、さみしいだろうという態度で接すると、どんどん閉じてしまう、あなたの力がまだまだ地域に必要だという枠組みがあったから心を開いてくださったと話されていました。

ウインウインの関係に

面白いのが、ボランティアさんが利用者になるということもあるということです。70代で旦那様を亡くされた女性が毎日のように料理のボランティアをしているけれど、トイレの電球が切れてしまった。手が届かなくて今まで懐中電灯をぶら下げていたのが、たまには甘えてみようかなと利用したところ、だいぶ楽になった、自分がしているからこそ利用してみようという気になったとお話されている方もいました。

実際に迷惑をかけているだけだと辛くなりますが、自分も必要とされている時間があり、困った時は甘えてみようかなと思えることで、迷惑をかけたくないと思ってしまう人の利用に対するハードルが下がっているのではないかということでした。

誰の身にもふりかかる

今日は私が取材した厳しい現場の話でしたので、非常に深刻な暗い、重い話ばかりしましたが、決して脅かしや大げさな意味でお話させていただいたわけではなく、誰の身にも降りかかることで、他人ごとではないと受け止めてほしくて申し上げました。

こうした事態はさらに収入減、負担増で深刻化するということ、高齢者の人口、一人暮らしの人口がこれから増え続けるという意味でも深刻化することが予想され、社会保障制度の改革を訴え続けると共に、何かできることを探さなければいけないということではないかと感じています。

実践者の方も多くいらっしゃると思います。そういう方はぜひご一報ください。取材に飛んで参ります。私の地域はこれができるという知恵を共有し、向き合っていくことも重要なのではないかと考えています。

今後も老人漂流社会というシリーズも含めて高齢者の問題の情報発信を続けて参りますので、番組を通じてもご意見、ご感想そしてご自身の体験談などをお寄せいただければ嬉しく思います。今日はご清聴いただきましてありがとうございました。

理事会だより 6月

【日　時】
2017年6月13日(火)
19：30～21：18

【場　所】
盛岡フコク生命ビル会議室

【出席者】
役員、事務局併せて17名

1、2017年5月期活動報告並びに6～7月期活動計画が承認された

2、保団連代議員会の発言通告について代議員に一任することが承認された

3、学術文化部提案の「みちのく潮風トレイルin碁石海岸」企画書が承認された

7月号掲載記事の訂正とお詫び

第40回定期総会でいただきました祝電・メッセージ一覧に誤りがございました。正しくは以下の通りです。お詫びして訂正いたします。

メッセージ・お祝い

（敬称略・受付順）

【政党】
社会民主党岩手県連合　代表　小西　和子

【衆議院議員】
衆議院議員　小沢　一郎
衆議院議員　黄川田　徹
衆議院議員　橋本　英教
衆議院議員　藤原　崇

【参議院議員】
参議院議員　木戸口英司

【県議会議員】
岩手県議会議員　阿部　盛重
岩手県議会議員　軽石　義則
岩手県議会議員　川村　伸浩
岩手県議会議員　吉田けい子
岩手県議会議員　千葉　絢子
岩手県議会議員　髙橋　但馬

【地方自治体】
奥州市　市長　小沢　昌記
陸前高田市　市長　戸羽　太
宮古市　市長　山本　正徳
盛岡市　市長　谷藤　裕明

【団体】
岩手県労働組合連合会　議長　金野　耕司
岩手県医療労働組合連合会　執行委員長　中野るみ子
岩手県生活と健康を守る会連合会　会長　澤田　稔
岩手県医師会　会長　石川　育成
岩手県歯科医師会　会長　佐藤　保

【生命保険会社等】
株式会社東北銀行　頭取　村上　尚登
フコク生命盛岡支社　支社長　宮内　誠
三井生命保険株式会社　岩手支社長　山内　輝
日本生命保険相互会社　代表取締役社長　筒井　義信
盛岡タイムス社　代表取締役社長　宮野　裕子
岩手日報社　代表取締役会長　三浦　宏
岩手日報社　代表取締役社長　東根千万億
株式会社ＩＢＣ岩手放送　代表取締役社長　鎌田　英樹
株式会社テレビ岩手　代表取締役社長　楢崎　憲二

他　37保険医協会、医会より

■　東北銀行、北日本銀行と協定融資制度がございます。詳しくはお問い合わせ下さい。FAX 019-651-7374 またはメール iwayou@doc-net.or.jp までお願いします。